

情報セキュリティマネジメント運営について

CISA (Certified Information System Auditor)
公認情報システム監査人資格を中心として

2006年9月15日
ISACA 東京支部
CISA委員会

制度の沿革・概要

情報システムコントロール協会

(ISACA: the Information Systems Audit and Control Association®)

2006年6月30日現在 : 100カ国に56,000名以上の会員 / 全世界で170以上の支部

日本国内会員数 (東京 : 1,260名、大阪 : 151名、名古屋 : 50名)

- EDPAAとして1969年に協会設立
- 1978年 公認情報システム監査人(CISA)資格認定を開始
- 1984年 4月 東京支部設立
- 1986年 4月 CISA試験日本語化
- 2005年度より年2回制試験となる。(1,100名/年 東京会場)

目的: “情報システムの監査や統制にかかわる個人の職務と職責を立派に果たす知識と経験を有していることを保証すること。”

CISA認定者数 全世界認定者数 : 34,361名

日本国内認定者数(非会員含む) : 1,067名

(7月6日現在)



資格を取得しようとする人材の傾向

企業・団体等の情報システムの監査及びコントロールにかかわる業務を担当する専門家

- 企業の情報システムやセキュリティに係わるコントロール(統制)を評価(監査)する個人。
- 企業での情報システムやセキュリティのコントロール(統制)に係わる組織で業務を担当する個人。

具体的には、内部監査部、検査部、内部統制を推進や運営を行なう部署、また、前述の業務に係わるコンサルティングに携わる個人など。

受験者層

- 近年は国内でも認知され、国内企業の社会人や学生が個人的に受験
- 試験は年2回 - 6月と12月(試験日はCISMと同一)
- 日本語や他言語による受験も可能



資格制度の概要

- 情報システム監査及びコントロールの専門性に特化した資格として設計。
- 資格認定の前提として、情報システム監査及びコントロールの実務経験が必要。
(試験合格後に経験を積む事も可能)
- 情報システム監査人の業務分析(6ドメイン)に基づく基準と試験問題を開発。

ドメイン1: 情報システム監査のプロセス

ドメイン2: ITガバナンス

ドメイン3: システムとインフラストラクチャーのライフサイクル管理

ドメイン4: ITサービスの提供と支援

ドメイン5: 情報資産の保護

ドメイン6: 災害復旧と業務継続



資格取得者の品質維持

CISA認定までの流れ

- CISA試験に合格する。(200問の問題に解答 スケールドスコア 75点以上)
- 情報システム監査及びコントロールに関する5年以上の経験。
(ただし、学歴や経歴等により経験年数を充当する事は可能)

資格の維持

- 管理手数料を納入。
- ISACA職業倫理規則を遵守。
- 継続教育方針(CEP)を順守 (年間最低20時間取得。3年間で計120時間以上。)
- 継続教育遵守状況の監査制度あり。監査要件を満たす証拠を提示できない場合、資格は剥奪される。



運用にあたっての課題

ボランティア活動ゆえの課題

- CISA受験者講習会、試験説明会、合格者説明会の年2回開催。
- CISA試験関連テキストや問題集の翻訳、査読作業
- CISA受験希望者からの各種質問への応答など。
特に近年の会員数増加のため、事務効率化やISACA事務局の体制強化が
近々の課題

その他

- CISA, CISM試験や受験マテリアルでの専門用語(翻訳辞書)の統一



各種資格との関係について

< 各種資格との比較 >

- CISAにおいてセキュリティは対象となる ITリスクの one of them。
- CISAとCISM
- CISAとシステム監査技術者試験
- CISAは独立系資格

< 各種資格との情報交換の必要性 >

- 情報システム監査関連資格が複数存在するため、それぞれの資格の特徴や目的の整理
- 各団体の創設趣旨、資格目的、継続教育の有無などの相違が相互認証の課題
- 各種監査(セキュリティ関連資格含む)資格運営団体間の情報交換。



セキュリティ人材の現状・評価(一般論として)

< 資格所有者側 >

- 情報セキュリティ技術や情報システム技術の進展へのキャッチアップ
- 知識だけではなく総合的判断(評価)能力や的確なコンサル能力の獲得

< 雇用者側 >

- “試験合格”と“資格認定”の違いの理解不足
- 各種資格の特徴や目的に関する理解不足
- 資格保有者と配置の適切性



制度に対する改善要望(一般論として)

- 専門性維持のための継続教育要件
- 継続教育提供の機会拡大
- 個人や企業への啓蒙活動

A stylized graphic of a blue leaf or fan-like shape, composed of several overlapping, pointed segments, positioned in the bottom right corner of the slide.

以上。